

初台リハビリテーション病院

中学生の職場体験に協力しました

2024年11月に中学3年生の生徒さん2名が、当院で2日間の職場体験を行いました。業務の見学や手伝いをはじめ、様々な職種から話を聞いたり、リハビリの機器に触れてみたりと、当院ならではの経験や学びを得てもらいました。生徒さんからは「医療の技術や努力を知って少しだけ世界の見方が変わった」という感想がありました。体験を通し、働くことの厳しさを知ると共に、この仕事の“やりがい”を実感してもらえたのではないかと思います。



船橋市立リハビリテーション病院

院内コンサート『音楽のひととき』を開催

2024年12月、約5年ぶりに院内コンサート『音楽のひととき』を開催しました！コロナ禍ではたくさんのことが制限されコンサートについても中止をしておりましたが、今回入院患者さまを対象にコンサートを開催できたことは感慨深いものがありました。コンサートは大盛況で、多くの入院患者さまが音楽を楽しまれました。毎日リハビリを頑張る患者さまに音楽を通して元気をお届けできたのではないかと思います。今後も月に1回の頻度で開催する予定です。



船橋市リハビリセンター

第93回 介護職員向け勉強会を開催

2024年12月6日 リハビリセンターにおいて、第93回介護職員向け勉強会を行いました。特別養護老人ホーム、グループホーム、デイサービス、訪問介護など、様々な事業所から20名の方が参加されました。テーマは「移乗」でしたが、参加された方からは、「楽に出来る介助方法を学ぶことが出来た」「体験してみてもお客様の気持ちが分かりました」「困っていた移乗に関して解決できたと思う」などの声が聞かれており、それぞれに手応えを感じてくださったようです。



在宅総合ケアセンター元浅草

多職種合同事例検討会の開催！

2024年12月5日に台東区役所で多職種事例検討会『嚙下障害を抱えたまま自宅退院となった利用者に対して在宅チームの関わりを考える』を開催！13職種56名が参加、症例に対し各職種としての関わり方やサービス提供者の連携についてグループワーク形式で意見交換を行いました。『同事例でも職種による見え方考え方がこれほど違うのか』『介入困難な事例をテーマにもっと話し合う場が必要』など、多職種の信頼関係を作る一つのきっかけになれたのではと考えます。



在宅総合ケアセンター成城

クリスマスコンサートを開催しました！

2024年12月22日(日)、一昨年から2回目となる入院患者さま向けのクリスマスコンサートを開催しました。東京農業大学第一高等学校中等部合唱部の皆様に有志でお越し頂き「クリスマスメドレー」や「上を向いて歩こう」など計8曲を約40分間披露して頂きました。15名からなる迫力ある合唱に「感激した」「クリスマスを満喫した」「最高だった」といった感想をいただき、患者さま、職員も共に歌い笑顔あふれる素敵な時間となりました。



令和7(2025)年 年頭のご挨拶



人財育成局
池田 吉隆

新年あけましておめでとうございます。

2025年(令和7年)の干支は巳年(へび年)です。蛇は再生、神秘、知恵、変容を象徴する動物として古くから尊ばれてきました。その特性から「変容」と「成長」の象徴とされています。

当法人は創設から23年間、リハビリテーション医療のサービス向上を目指して変革を続けてきました。昨今の日本は、人口減少と高齢化が進みリハビリテーション医療の需要が高まる一方、2040年問題の1つとして少子化に伴う労働力不足が社会問題化されています。この課題に対応するため、当法人は国の推奨している働き方改革に2年前から本格的に着手し、今年で3年目を迎えます。

当法人を利用していただく方々により質の高いリハビリテーション医療を提供するために、職員が健康で働きやすい環境を整えるべく、「変容」と「成長」を目指す年にしたいと思います。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



監査役
森本 榮

謹んで新春をお祝い申し上げます。旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。

昨年、茨城県の鹿島神社を初めて参拝いたしました。本殿や様々な由緒ある場所を巡る中で、私自身が感激したのが国歌「君が代」の歌詞にでてくる「さざれ石」に出会えたことです。君が代の中で「さざれ石の巖(いわお)となりて」つまりはちいさな石(国民)が大きな巖(団結・協力)になることを表現した歌詞のルーツになった場所です。

私はこの巖の姿を見て我々輝生会が大切にしている、チームでアプローチをする姿と発想が重なりました。

2025年も職員個々(さざれ石)が努力研鑽し、法人は教育体制の強化、運営の見直しなどの努力を惜しまず、ご利用者様に最良のチーム(巖となり)アプローチを提供し、利用者様のQOL(人生の質)を向上できるよう努力します。そして輝生会が「苔のむすまで」のように長く発展することを願って年頭の挨拶といたします。



顧問
堅田 由美子

あけましておめでとうございます。

千年前の1025年の日本は平安時代。藤原道長が権勢を振るい朝廷文化が花開きました。紫式部、清少納言などが文学作品を残し「もののあわれ」という美的理念が生まれ、その豊かな美意識が尊ばれました。時は流れて2025年。天体の動きによると「土の時代」が過ぎ去り「風の時代」が到来したと言われています。物やお金、権力を重視する価値観から「人とのつながり」や「精神性」を尊ぶ価値観へ変化するそうで、輝生会はますます貢献できる時代になりそうです。輝生会の理念にあるように「人間の尊厳を大切にすること」、「One for all, All for one」を合言葉によりよい医療介護サービスを目指していくこと、地域リハビリテーションを通して地域へ貢献していくことなど、まさに時代が求める価値観に答えられる輝生会であり、パワーアップも楽しみです。

皆さまにとって穏やかで明るい1年でありますように祈りつつ、本年もよろしくお願い申し上げます。

季刊情報誌「輝NET」 編集・発行 医療法人社団 輝生会 本部/〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-9 5F <https://www.kiseikai-reha.com>

初台リハビリテーション病院 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3 TEL.03-5365-8500 <https://www.hatsudai-reha.or.jp>
 船橋市立リハビリテーション病院 〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1 TEL.047-439-1200 <https://www.funabashi-reha.com>
 船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-519-3 TEL.047-468-2001 <https://www.funabashi-rehacen.com>
 在宅総合ケアセンター元浅草 〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-17 TEL.03-5828-8031 <https://www.motoasakusa-reha.com>
 在宅総合ケアセンター成城 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-8-7 TEL.03-5429-2292 <https://www.seijo-reha.com>

輝生会の
基本理念と方針

- 「人間の尊厳」の保持
- 「地域リハビリテーション」の推進
- 「情報」の開示
- 「主体性・自己決定権」の尊重
- 「ノーマライゼーション」の実現

輝生会における
患者さまの権利

- 人権を尊重される権利
- 最善の医療を受ける権利
- 自らの意思で選択・決定する権利
- 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利
- プライバシーの保護を求める権利

栄養部 お正月料理の紹介



初台



- 《お品書き》
- 献立朝食
 ・ふぐ雑炊
 ・小鱈
 ・ずわい蟹の酢の物
 ・南瓜そぼろあんかけ
- 献立昼食
 ・御節(海老艶煮・黒豆・鯉昆布巻き・数の子・なます)
 ・黄金豆腐
 ・関東風お雑煮
 ・赤飯
 ・お屠蘇



船橋



- 《お品書き》
- 献立朝食
 ・鯛ご飯
 ・御煮しめ(鶏肉・里芋・人参・蒟蒻・生麩)
 ・林檎なます
 ・蟹と松茸の煮浸し
 ・吸い物
- 献立昼食
 ・御節オードブル(黒豆・海老進丈・数の子・苜蓿・チーズ味噌漬・栗きんとん・伊達巻き・鶏松風焼・昆布煮・金柑)
 ・鮭お造り
 ・お雑煮魚介スープ仕立て



成城



- 《お品書き》
- 献立朝食
 ・茄子湯葉琥珀あんかけ
 ・めかぶ松前漬
 ・胡瓜と大根漬
 ・沢煮椀
 ・ご飯
- 献立昼食
 ・祝い重(黒豆・栗きんとん・銀鮭西・京焼き・里芋福め煮・紅白進丈・杏・寒天)
 ・お雑煮
 ・赤飯
 ・みかん

輝生会では、四季折々の料理をイベントを行っています。特に年末年始は2大イベントで、12月はクリスマス料理を洋食・1月は御節料理を和食が担当します。各拠点の料理長が厳選された食材を仕入れ、趣向をこらし、腕によりをかけ、味は元より、色合い・盛り付け・器・硬さ・温度、それぞれに気を配り調理の陣頭指揮に立ちます。特に黒豆などは色艶や硬さなどが損なわれないよう3~4日間かけてゆっくりと煮て仕上げます。盛り付けから提供まで調理師・栄養士・管理栄養士が共に総出で作業に当たります。2025年も年の始まりを料理と共に祝い、少しでも楽しんでいただきたいとの思いを込め料理を提案しました。また、1月7日の朝食には七草粥をご用意しております。これからも患者さま・利用者さまの嗜好を尊重し栄養状態を十分踏まえた上、季節を感じられる料理づくりを栄養部一丸となって取り組んでいきます。季節ごとのイベントも行っていますのでお楽しみください。 栄養部

こぼれ話「春の七草」

七草は大陸から渡って来た風習で平安のはじめに七草菜が食されたといわれます。その後、七草粥を食べて無病息災を祈るようになりました。諸説あります…

輝生会の研修紹介 「輝生会研究発表会」

輝生会は2002年6月の初台リハビリテーション病院開設から今日まで22年間の実践を通し、回復期から生活期への在宅支援体制の整備に努力を重ねてきました。現場における実践経過と成果の質、さらにはそれらの維持向上が大切であり、教育研修体制の充実が命題であります。この研究発表会は、その一役を担う場となります。

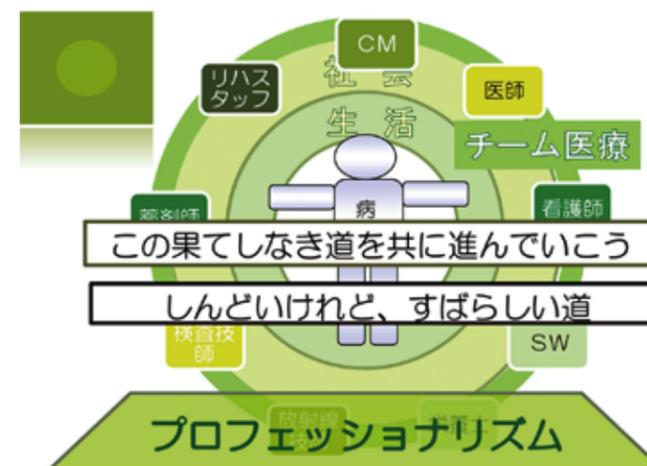
以前は、1) 発表の場を全職員に提供し共有すること、2) 予演会の役割を持つこと、3) 全拠点交流の場とすること、この3つを目的に全スタッフを必須参加としていました。しかし、2021年度からは、輝生会の研修体制の再構築に伴い5年目以上のシニアスタッフの共通研修に位置づけ、各種学会の予演会の役割を持つこととしました。

参加者は5年目までに培った知識、技術、経験を基に「自ら学び」の発表の場として積極的に参加してもらう姿勢を期待すると共に、発表内容も当法人の得意とするチームアプローチやより専門性に特化した発表まで、輝生会の取り組みを検証、更なる質向上につながるような場になっています。

開催形式は、半日のリモート開催とし、内容は、演題発表と特別講演で構成しています。特別講演は、著名な講師の方から、最先端の専門的知識や示唆、医療・福祉における社会的動向、リハビリテーション・ケアに対して豊かな経験を伺うなど、貴重な学びの機会と考えています。

今年度も、5回の開催(1回130名程度参加)を予定し、10月の開催で73回目を迎えました。この会の特別講演は、2005年から2010年3月まで初台リハビリテーション病院の2代目の院長を務めた木下牧子先生に講師をお願いし、ご自身曰く「リハビリの初心者」である中、輝生会の「チームアプローチ」の構築・強化に携われ、その経験や思い、最後には「この果てしない道を共に進んでいこう」「しんどいけれど、素晴らしい道」ということを伝えて頂きました。参加者はいずれも大きく響く「学び」を得たようで、それは受講後に提出される研修報告書からも明らかでした。抜粋して紹介します。

特別講演だけでなく、各スタッフが一般演題にエントリーし、学会等で発表する自身の研究を披露し、質疑応答を受けブラッシュアップしていきます。日々の業務を研究へ昇華し、また新たな学びを受ける場として、今後も輝生会研究発表会を充実したものとできるよう運営してまいります。 人財育成局



初台リハの立ち上げからチーム医療の確立までのお話を聞くことができた。(中略)それぞれが専門性を高め緊張感を持った協働が必要であることは、事務職にも当てはまることだと思った。チーム医療はコミュニケーション能力が必要不可欠であることが分かった。相手を傷つけることなく自分の意思を表明しあえる、優れたコミュニケーションスキルを学んでいきたい。

初台リハビリテーション病院 事務

私自身、少しずつ自己研鑽を行うようになってきた時期にこの講義が聞けてとても良かった。プロフェッショナルとスペシャリストの違いの話、区別がなかったため今後意識しながら臨床へ携わっていかねばと思う。「この道は素晴らしい道です」といえるように私自身、専門性を高める努力をしていきたい。

船橋市立リハビリテーション病院 理学療法士

演題から特別講演を通して、大切なのはコミュニケーションと共有であると思った。(中略)社会的責任の中で説明責任に言及されていたが、業務の中ではまず患者さまへ、次にチームスタッフへの責任があると思う。誰に対しても説明のできるケアを行ってきたい。

在宅総合ケアセンター成城 ケアワーカー